

---

# アンパンマン～LAST WAR～

とろろグミ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アンパンマン〜LAST WAR〜

### 【Nコード】

N8511N

### 【作者名】

とろろグミ

### 【あらすじ】

アンパンマンとバイキンマンの最終決戦

## 第巻話・・・

これは、アンパンマンとバイキンマンの長きに亘る戦いを描いた話である

時は、西暦3337年（アンパンマン暦195年）場所は、地球

「バイキンマンめ、次こそ決着をつけてやる」

「その為に、早く傷を治しなさい」

「ああ、分かっているさメロンパンナ」

「でも顔は8代目ジャムおじさんは死んでしまつて、新しい顔の作り方は、失われているのよ」

「バイキンマンの野郎かびるんどもを増やしやがつて」

「こつちに残された物といえばアンパンマン号EXだけだということに、バイキンマンは今も尚新しい戦闘機を作っているんだぞ、こつちに勝ち目はない」

「でも俺はやらなければならぬ」

「無茶言つな、初代アンパンマンでもあいつを倒すことができなかったんだぞ」

すると、街の方からカバおがやつて来た

「大変だー」

「どうしたカバ夫？」

「カビルンルンが攻めてきたんだ」

「数は？」

「約1万匹」

「い、1万匹だと」

「関係ないそれでも俺は行く」

「待てアパンマン、俺たちが行くその間にお前は傷を治せ」

「しかし・・・」

「心配すんな」

「分かった！！街を頼んだぞ！！」

「ああ、任せとけ」

## 第貳話 裏切り

- 街 -

カレーパンマン達は、街に着いたが、カビルンルの姿がなかった

「しかしひどい有様だな・・・」

「誰か人がいないか捜すぞ」

「ああ」

街の中央に着いたとき、

「かかったな!!!」

「お、お前はバイキンマン!!!」

周りを見渡してみると辺り一面にカビルンルがいた。その数、1  
00万匹以上

「カバ夫のやつ数もまともに数えれんのか」

「でかしたぞカバ夫」

「バイキンマン様、後で約束のものを」

「分かっている」

「か、カバ夫俺たちを裏切ったのか?」

「裏切る?元から貴様らとは仲間じゃなかったのさ」

「な、なんだと・・・」

「殺れ、カビルンル!!!」

## 第参話 足止め

「俺たちの命は、貴様らにただで遣るほど安くは、ない!!」  
「そして、俺たちは、絶対にあきらめない!!」  
「御託は済んだか? ならば死ね」

・工場・

「アンパンマン大変だ」  
「如何したバタ子? まさか・・・カレーパンマンと食パンマンが」  
「それだけじゃないの、バイキンマンがこっちに向かってきてる  
の」

「早く手を打たねば・・・」

「私が少しでも時間を稼ぐ」

「メロンパンナお前には無理だ、だから早く逃げる!!」

「私だって!!」

そういうと、メロンパンナは、バイキンマンのところへ向かった。

「俺だってこんな傷がなければ・・・」

「悔やんでも仕方ないわ、それよりもバイキンマンを如何するか  
考えましょう」

「ああ、そうだな」

「あつ!!」

「如何した、バタ子?」

「ジャムおじさんが死ぬ前に残した物に何か書いてあるかもしれない」

バタ子は、ジャムおじさんの書斎に行き何か書いてある紙を持ってきた。

「こゝ、これは・・・」

「何が書いてあった？」

「8代目ジャムおじさんが作った伝説の顔」

「それは、どこにあるんだ？」

「地下室よ」

## 第四話 伝説の顔

- 地下室 -

「ここが地下室か」

「ここに伝説の顔が・・・」

奥に進んでみると、金庫がありそれを明けてみると、そこには、黄金に輝く顔があった。

「これが伝説の顔か・・・」

「これがあればバイキンマンに勝てるかもしれないわ」

「勝てるかもしれないじゃ無い、絶対にバイキンマンに勝つんだ

「!?!」

「そうね、絶対に勝ちましょう、でも、その前に傷を治しましよ

う

「ああ」

- 工場近くの森 -

「バイキンマン様そろそろパン工場が見えてくるころです」

「奴等との戦いもこれで終わりだ、もちろん俺の勝利だな」

## 第五話 VSカビルンルン

-工場-

「アンパンマン出て来い」

「来たかバイキンマン」

「今日で長きに亘る戦いに終止符を打つ」

「だが、アンパンマンよ、このカビルンルンを如何する？」

「もちろん倒すに決まっている」

「ならば行けカビルンルンよ」

バイキンマンの一言によりカビルンルンが一斉に襲い掛かってきた。

「あ、アンパンマン」

「こんな雑魚に俺が倒されるとでも思ったか？バタ子」

しかし、倒しても倒しても減る気配が無い

「数が多すぎる」

「それでも、さっきよりは減ったんだがな」

「バタ子あれもってこい」

「分かった」

バタ子は、工場の中から伝説の顔を取ってきた

「アンパンマン、伝説の顔よ」

「で、伝説の顔だと」

「元気10000倍アンパンマン」

「だが、顔が変わったぐらいで95万匹のカビルンルンは、倒せ

まい」

「それは如何かな？奥義『ダイクネス・ヘルファイヤー闇色の獄炎』」

95万匹のカビルンルンは、すべて焼け死んでしまった。

「後は、お前だけだバイキンマン」

「それは如何かな？行けカバ夫」

「カバ夫だど・・・」

## 第六話 VSカバ夫

「何故カバ夫がバイキンマンの味方を？」

「何だ知らなかったのか？」

「何をだ？」

「コイツが、スパイだったことだ」

「カバ夫、まさかお前がスパイだったなんて……」

「カバ夫、アンパンマンを殺れ！」

「分かりました」

「カバ夫、お前に俺が殺れるのかな？」

「殺れるさ、30秒でな！」

「お前には無理だ！何故なら、俺にはこの伝説の顔があるからな  
！！」

「フツ」

「何が可笑しい？」

「その顔を鏡でよく見てみな！」

アンパンマンは鏡を見た。

「こ、これは……」

なんと、アンパンマンの顔がこげていたのだ

「ま、まさかあの奥義を使ったせいか……」

「愚かなりアンパンマン」

「だが、俺は諦めない」

「死ぬがいいアンパンマン、奥義『カバ炎』」

「奥義『ダークネス・ヘルファイヤー闇色の獄炎』」

アンパンマンとカバ夫の奥義の威力は、ほぼ互角  
しかし、アンパンマンの顔は少しずつこげていく  
そのとき、

「奥義『バタ子ボンバー』」

説明しよう、

バタ子ボンバーとは、自分の命を削り敵に大ダメージを与える  
ものなのだ

カバ夫は、バタ子ボンバーにより死んだ

「まさか、カバ夫まで殺られるとは・・・」

「バタ子、大丈夫か？」

「もうダメかもしれない・・・」

「諦めんな」

「アンパンマン」

「何だ？」

「これを」

「こ、これは」

バタ子はアンパンマンにあるものを渡すと死んでしまった。

## 第七話 最後の顔

「バイキンマン」

「なんだ？アンパンマン」

「お前は絶対俺が倒す」

「その顔でか？無理だな」

「いや、俺にはこれがある」

「そ、それは・・・」

アンパンマンが手に持っていたのは、なんと新しい顔だったのだ

「しかし、それは伝説の顔ではなく普通の顔だ」

「それがどうした？」

「普通の顔では俺を倒せんぞ」

「やってみなくては分からん」

「かかって来いアンパンマン」

「行くぞバイキンマン」

アンパンマンは、新しい顔をつかった

「元気100倍アンパンマン」

「究極奥義『バイキン・パンチ』」

「究極奥義『ネオ・アンパンチ』」

## 最終話 決着

アンパンマンとバイキンマンの奥義の打ち合いはアンパンマンの勝ちだった

「バイキンマンお前の負けだ」

「まさか・・・この・・・俺まで・・・殺られる・・・なんて・・・」

アンパンマンとバイキンマンの戦いに終止符が打たれた

そして、アンパンマンの死後、工場跡地にはアンパンマンの銅像が建った

西暦3337年（アンパンマン暦195年） 12月30日最終決戦

西暦3337年（アンパンマン暦195年） 12月31日バイキンマンとの戦いに決着がつく

西暦3339年（アンパンマン暦198年） 2月29日アンパンマン病死

西暦3339年（アンパンマン暦198年） 8月15日工場跡地にアンパンマンの銅像が建つ

- E N D -

脚本 監督  
愚魅 愚魅

## あとがき

アンパンマン〜LAST WAR〜完結しました。

久しぶりに変なテンションになったので、これを書きました。三日で完結。初めての二次創作ですが、かなりの駄作です。そして、完結小説二つ目です。夏休み前から考えていたのですが、なかなか書く気になれず、今になってしまいました。

気が向いたらほかの小説を読んで下さい。後、感想をください。本当に何でも良いので感想をください。

最後に、この小説を読んで下さり、ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8511n/>

---

アンパンマン～LAST WAR～

2010年10月9日17時31分発行